

# 操作方法はわかり

薬液カセットの取り付け方	58
薬液カセットの取り外し方	59
カセットチューブとお腹のチューブの取り付け方	60
カセットチューブとお腹のチューブの取り外し方	61
ポンプ操作の手順	62
チューブの洗浄(フラッシング)の手順	65

# 操作方法はわかり

## 薬液カセットの取り付け方

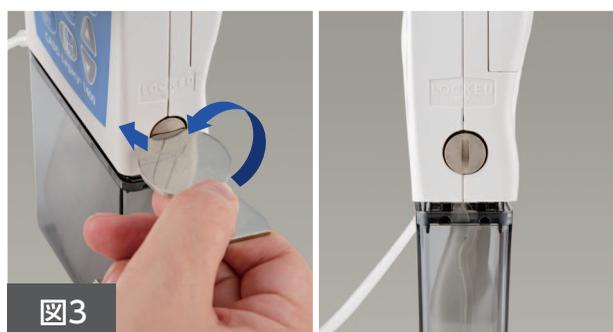
1. ポンプの底にあるヒンジ(端にある2本の金属バー)部分にカセットのフックを引っかけます(図1)。



2. 平らな所でカセットとポンプをしっかりと密着するように上から押さえます(図2)。



3. カセットロック(バネ式の鍵)の溝にコインを挿し込み、押しながら反時計回りに90度回し締めます(図3)。



### ポイント

カセットがポンプにしっかり装着されていないと、**カセットナシドウサフノウ** のアラームが鳴る場合がありますので、カセットロックの溝は垂直になるようにしっかり締めてください。

## 薬液カセットの取り外し方

ポンプの電源を切ってから、カセットを取り外します。

1. カセットロックの溝にコインを挿し込み、押しながら時計回りに90度回してロックを外します(図1)。



2. ポンプからカセットを取り外します(図2)。



3. ポンプの底に保護カバーを取り付けます(図3)。カセットロックの溝にコインを挿し込み、押しながら反時計回りに90度回して締めます。



4. 1日のお薬の投与を終了した場合は、保護カバーを取り付けて安全なところに保管します(図4)。

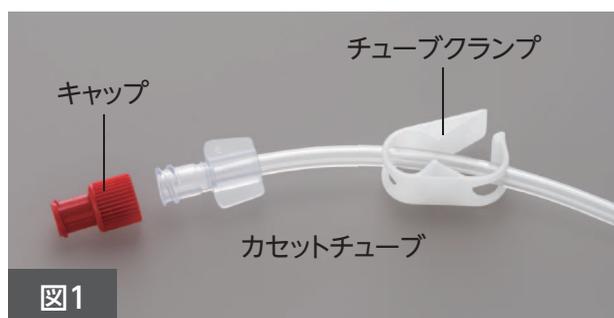


## カセットチューブとお腹のチューブの取り付け方

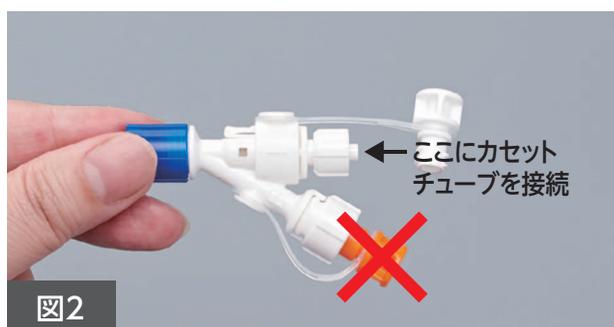
カセットはポンプにあらかじめ取り付けます。

1. カセットチューブの赤いキャップを外し、チューブクランプを開きます(図1)。

**注意** 赤いキャップは、投与中断時(シャワー・入浴など)に使用するため保管します。  
空腸側の接続口先端の白いキャップに取り付けておくといいでしょう。



2. 空腸側の接続口先端の白いキャップを回して外し、カセットチューブを接続します(図2)。



**注意** 必ずカセットチューブ側を回してください(図3)。



3. チューブのねじれを直します(図4)。  
(カセットチューブは回して接続するためチューブ上にねじれが発生するため)



## カセットチューブとお腹のチューブの取り外し方

### 1. ポンプを停止させます。



ボタンを**3秒間長押し**して投与を停止します。

画面には **ストップ** と表示されます。

ポンプの電源を切る時には



ボタンを**3秒間長押し**してポンプの電源を切ります。

### 2. 胃ろうチューブとの接続部からカセットチューブを取り外します(図1)。

**注意** 必ずカセットチューブ側を回してください。



図1

### チューブ閉塞の原因

チューブのどこかがねじれたり屈曲したりして、チューブに閉塞が起こります。お腹のチューブのねじれを防ぐために、カセットチューブを回してカセットを接続します。もしお腹側の胃ろうチューブを回してしまうと、お腹の中でチューブがねじれてしまいチューブの閉塞を起こすことがあります。

また、胃や腸の蠕動運動の影響で、チューブがねじれたり屈曲してチューブが閉塞することもあります。

チューブが閉塞してお薬が流れにくくなるのは、チューブの中でお薬が固まって閉塞しているわけではありませんので、あわてないで対応してください。

## ポンプ操作の手順

### 朝の投与を行う

- ON/OFF** ボタンを3秒間長押し  
電源が入り、画面に設定が順に表示されたのち、画面は **ストップ** になります。
- 停止作動** ボタンを3秒間長押し  
画面に設定が順に表示されたのち、画面は **ドウサチュウ** になります。
- 朝の投与** ボタンを2回押す  
1回目で **アサノヨウリョウ ml** が表示され、2回目で投与開始となります。  
\* 画面では『アサノヨウリョウ』の設定値がカウントダウンされます。朝の投与が終了すると、自動的に画面は **ドウサチュウ** になり持続投与が開始します。

### 追加投与を行う

- 画面は **ドウサチュウ** と表示されていることを確認してから、
- 追加投与** ボタンを押す  
「ピピ」と鳴って **ドーズ** 画面が表示され追加投与が開始されます。  
追加投与が終了すると、自動的に画面は **ドウサチュウ** にもどり持続投与が再開します。

## ポンプを停止させる

### ① **停止 作動** ボタンを3秒間長押し

画面は **ストップ** になり投与が停止します。

\* ポンプは約5分毎に「ピピピ」と音が鳴ります。

このアラームはポンプのつけ忘れがないようにお知らせするものなので、アラームを消す必要はありません。

## 停止状態からポンプを作動させる

① 画面は **ストップ** と表示されていることを確認してから、

### ② **停止 作動** ボタンを3秒間長押し

画面に設定が順に表示されたのち、

画面は **ドウサチュウ** になり持続投与が開始します。

## ポンプの電源を切る

- 1 **停止  
作動** ボタンを3秒間長押し

画面は **ストップ** になり投与が停止します。

\*ストップ画面では、約5分毎に「ピピピ」と音が鳴ります。

- 2 **ON  
OFF** ボタンを3秒間長押し

ボタンを長押しして電源を切ります。

## 電源を入れて投与を再開

- 1 **ON  
OFF** ボタンを3秒間長押し

電源が入り、画面に設定が順に表示されたのち、

画面は **ストップ** になります。

- 2 **停止  
作動** ボタンを3秒間長押し

画面に設定が順に表示されたのち、

画面は **ドウサチュウ** になり持続投与が開始します。

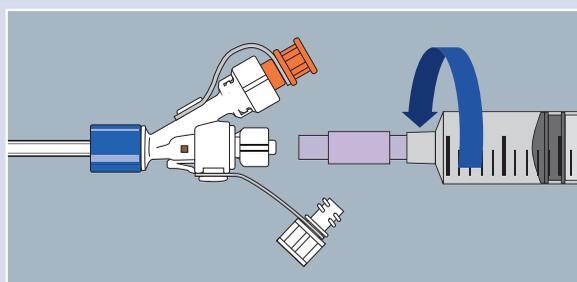
## ポンプは医療機関からのレンタル品です

- 落書きなどしないで大切に使用してください。
- ポンプは、1年に1度定期点検のため医療機関で交換を行います。交換日が近づきましたら事前に連絡がありますので医師の指示に従いポンプを交換してください。
- デュオドーパ治療を止めた場合はポンプレンタル元の医療機関に返却してください。

## チューブの洗浄(フラッシング)の手順

- ①注射器に専用のアダプタを接続します。
- ②注射器側を回しながらお腹のチューブに接続します。

### 空腸チューブのフラッシング

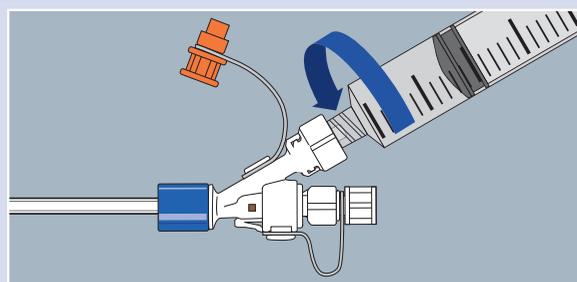


数回に分けて、水50mL以上を注入します。

#### ポイント

水は少量ずつ数回に分けて注入するとフラッシングしやすくなります。  
1回目は水10mLで、2回目からは20mLを2回行うとよいでしょう。

### 胃ろうチューブのフラッシング



数回に分けて、水40mL以上を注入します。

フラッシングが終了したら先端のキャップをつけます。

### フラッシング時の注意

- ・注射器を接続するときは締めすぎないでください。締めすぎると固くなって外れにくくなったり、コネクタが破損することがあります。  
注射器を外すときは、コネクタの接続部と注射器が真っすぐになるようにしてください。
- ・注射器やアダプタは医療機関から指示されたものを使用してください。
- ・お湯でフラッシングしないでください。やけどを負う可能性があります。
- ・経腸栄養剤を投与している場合は、チューブの詰まりを防ぐため、栄養剤投与の後に必ず胃ろうチューブのフラッシングを行ってください。

空腸チューブの中には粘性のあるゲル状のお薬が充填されているために、フラッシングの時には抵抗を感じます。抵抗が強くて水の注入ができない場合は、無理な力を入れて行わないでください。

チューブが破損する場合があります。

お薬はチューブの中ですぐに固まったりしませんのであわてないでください。